

# 第1回 IoP 推進機構理事会 議事概要

日時: 令和2年3月21日(日)

場所: 高知会館「飛鳥の間」

出席: 理事13名が出席 別紙「出席者名簿」のとおり

## 1 開会

(挨拶/受田事業責任者)

皆さん、こんにちは。このIoP事業の事業責任者を仰せつかっております高知大学の受田でございます。まず、本日は年度末の大変慌ただしい時期に、また新型コロナウイルスの感染予防対策等、各組織において多忙を極めておる中で、この第1回のIoP推進機構理事会にご参集を賜りましたこと、まず事業責任者として心より御礼を申し上げます。

このIoPのプロジェクトは、平成30年度に国の地方大学・地域産業創生交付金の補助によって立ち上がったプロジェクトですが、2年目が終わるという段階です。ただ、実際には初年度は、下半期からの事業スタートでしたので、実質的には1年半弱のプロジェクトの推進となります。この間、関係の皆様方のご尽力によりまして、プロジェクト自体が研究のステージと人材育成のステージが相まって、現場の農家の皆様への普及の段階、技術の還元の段階へと入りつつある状況かと思えます。このIoPのプロジェクト自体が知事をトップとした産学官連携協議会の下でPDCAを回している、その下に3つの部会を設けて3つのエンジンとして、IoPプロジェクト自体を推進していくところです。

研究に関しては、本家部会長の下、研究推進部会としてKPIの達成に各研究者がどういふふうコミットしていくか、これを明確に定量的にロードマップとして位置付け、研究者が当事者としてこのプロジェクトに参画をしている意識を高く醸成をしてもらう仕組みを、実質的に回していただいております。

人材育成部会に関しても、尾形部会長の下、IoP塾を始め高等教育機関が連携をしたプログラム、また今後、大学院の連携を実質的な課程として立ち上げていくことを検討しているところです。

IoP推進機構検討部会は、私が部会長を仰せつかっておりましたが、実質的には石塚副部会長の下、議論を展開をして参りました。

当初は、このIoP推進機構は研究や教育、人材育成、それから農家の皆様への実装も含めて、プロジェクト全体の受け皿となるようなスキームで議論を進めていたところです。ただ、1年半近くのこの部会における議論を通じて、研究や人材育成の部分については高等教育機関や公設研究機関を含めたそれぞれが自主性を持ちながら、このIoPが求める目標に向けて連携を密にしていく形が求められるのではないかという話になってきました。

結果的には、IoP 推進機構が IoP クラウドの構築や、その運用に関して、またこのプロジェクトの KPI を実質的に回していく役割を展開していかれたと考えているところです。農家の皆さんにより楽に、そして稼いでいただくという、このプロジェクトの目的の出口を IoP 推進機構が、具体的に実装していく、そんなイメージを持っています。

今回、この IoP プロジェクトを通じて我々は、国の評価委員会によって評価、チェックを受けております。座長は元コマツの坂根正弘会長、また副座長には経営共創基盤の富山和彦さんが務めておられ、そうそうたるメンバーです。

当初は、この評価にしっかり応えていくという極めて重いタスクを背負い込んでいたように思っていました。結果的には、この評価委員の皆様が我々のプロジェクトに親身になり、まるで当事者の意識を持っていただいている形で、建設的なアドバイスをいただける関係になりました。これは、このプロジェクトの推進の一つの大きな成果であると認識していますが、一方で、坂根座長からは、この IoP プロジェクトは、農業の新しいデータプラットフォームの構築を目指しているのではないかとというふうにお話をいただいております。高知が目指している農業の新たなデータプラットフォームは、いったい何をビジョンとして掲げ、どういう形のビジネスプランを描いているか、これが次の世代に向けてのこのプロジェクトの真価が問われる部分じゃないかと、おっしゃっていただいております。この事を坂根さんからは「ビジネスプランで先行し、現場力で勝負せよ」と表現されております。このビジネスプランの部分で農業の新たなデータプラットフォームとして具体的にどう描いていき、そして高知が持っている強みである現場力を通じて、それを世界のリーダーたる地位まで進化させていくのか、この部分がこれから我々に求められている極めて大きな仕事ではないかと思っております。

IoP 推進機構の理事会を通じて理事長が決まり、そして、2年後に法人格を持つ計画もありますが、新たなビジネスプランが描かれ、そして現場力によって世界で勝負していく、そういう高知モデルの施設園芸の将来を是非、この IoP 推進機構の皆様に描いていただく事を、大いに期待を申し上げまして、本日、第1回目の IoP 推進機構理事会の冒頭の挨拶とさせていただきます。本日は、よろしくお願ひいたします。

## 2 IoP プロジェクトの概要について(岡林参事)

## 3 IoP 推進機構について(松島理事)

## 4 理事紹介

## 5 理事長及び副理事長の選任について

事務局案が拍手多数により、次のとおり、承認された。

理事長:武市理事

副理事長:竹吉理事、杉村理事

## 6 議事

### (1)部会の設置について

- ①クラウドシステムチーム(岡林参事)
- ②ビジネスチーム(松島理事)
- ③知財データ管理チーム(石塚理事)

<質疑>

石塚理事

ビジネスチーム、クラウドチーム、知財チームのそれぞれが連携をしていかないといけないと思う。農家がこの取り組みで良かったと思える事が重要。農家のデータ提供に対する対価も含めて、どのようなインセンティブにするかも重要。

人材育成は、採算ベースが難しいので、何らかの支援を考えて、全体として良い形にする必要があると思う。

松島理事

(竹吉理事に対して)

IoP プロジェクトや IoP 推進機構との連携に関して、JAの方針など、話し合われている事について共有をお願いします。

竹吉理事

人材人員が不足気味で、業務の効率化を検討している。

各部署でシステム化をして、効率の良い事業に変えていくことが大きな課題。

様々なデータを用いてどのように活用できるのか、技術やノウハウが使えるという認識を深めること、職員も含めて、望んでいることへの見える成果や効果など、勉強したいと思う。

松島理事

今後、定期的にディスカッションをさせていただくなど、連携をお願いしたい。

武市理事長

取り組みを進めていくうちに、課題は出てくると思う。その課題を一つずつ解決していかないといけない。利害が相反するという場合も出てくる事もあると思うが、理念、目的を皆さんで決めて共有して進んでいく中で、目的達成を見据えて、皆さんで協力し合って、チーム戦で戦っていききたいと思う。

(2)その他

意見なし。

7 閉会